

農家組合をいかに育て、リーダー  
ならびにJA幹部育成をいかにし  
てきたか



 JAいわて花巻  
代表理事副組合長 高橋 勉

# I JAいわて花巻の概要

(平成28年2月末現在)

① 事業エリア 花巻市、北上市、西和賀町、遠野市、  
釜石市、大槌町(4市2町)

② 設立経過

平成10年3月1日 JAいわて花巻発足  
(花巻、石鳥谷、大迫町、東和町の4JAが合併)

平成20年5月1日 広域合併  
(花巻と北上市、西和賀、遠野地方の4JAが合併)

③ 組合員数 正組合員 22,902人  
准組合員 18,939人  
合計 41,841人

④ 役員数 理事36人、監事6人

⑤ 職員数 正職員 573人  
臨時・嘱託 120人  
パート 319人  
合計 1,012人



# I J A いわて花巻の概要

(平成28年2月末現在)

## 組合員組織・協力組織

農家組合	368組合
青年部	474人
女性部	3,081人
生産部会	35部会(10,802)
その他	13組織(30,669人)

人口 273,857人

世帯数 103,177戸

面積 340,429ha(うち耕作面積 30,261ha)

田 24,370ha

畑 5,336ha

樹園地 554ha

## 農業基盤

水稻作付面積 16,539ha

麦大豆作付面積 2,724ha

野菜作付面積 722ha

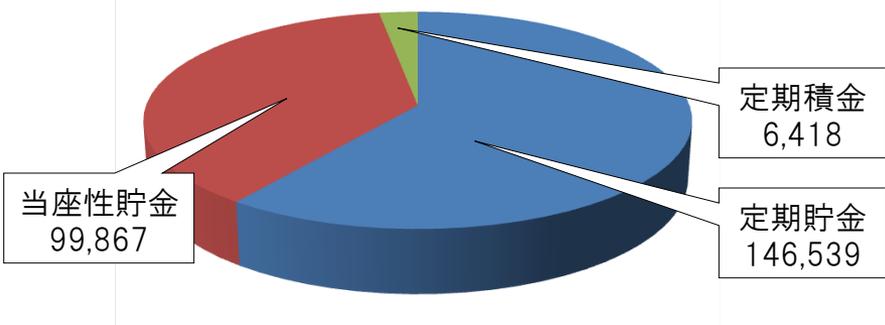


# I JAいわて花巻の概要

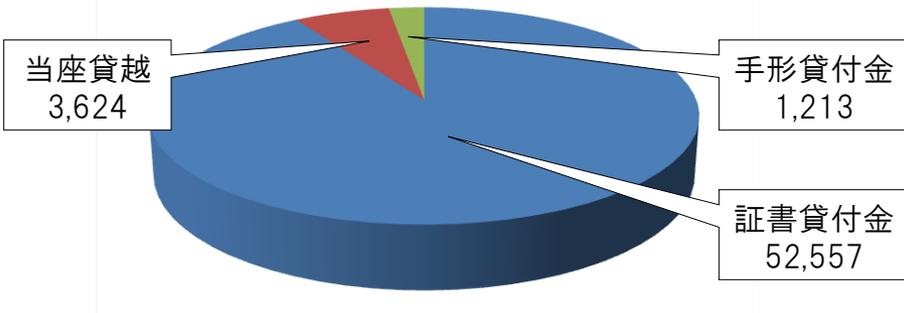
## 主要事業取扱実績

(単位:百万円、平成28年2月末現在)

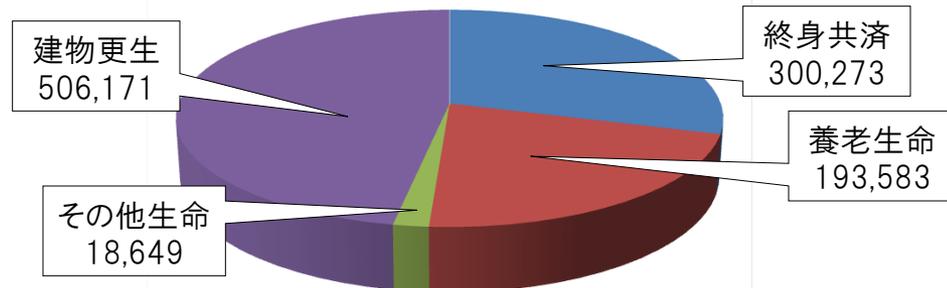
### ① 貯金残高 2,528億24百万円



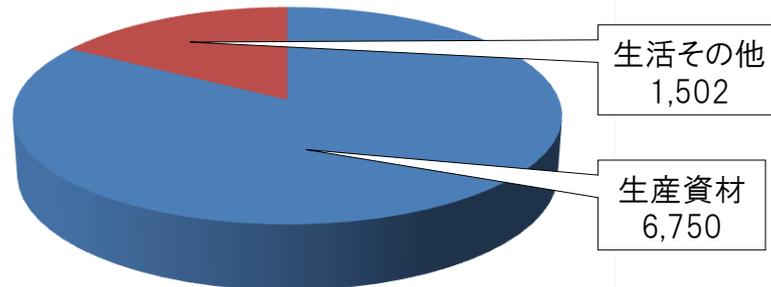
### ② 貸出金残高 573億95百万円



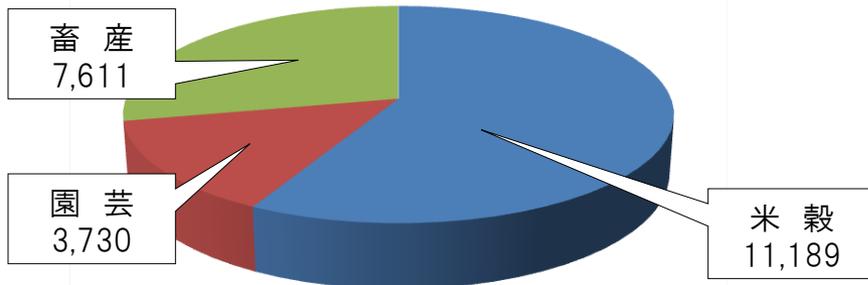
### ③ 長期共済保有高 1兆186億76百万円



### ④ 購買品供給高 82億54百万円



### ⑤ 販売品販売高 225億円32百万円



# Ⅱ JAいわて花巻のめざすもの

## 経営理念

私たちJAは、農業者の相互扶助組織として、各種の事業活動を通じて、わが国農業の発展、安全・安心な食料の安定供給及び地域経済・社会の発展に寄与します。

また、地域金融機関として信用を維持し、貯金者の保護をはかるとともに、金融の円滑化のため業務の健全かつ公正な運営を確保するよう公共的使命を担います。

私たちのJAは、これらの社会的責任を誠実にはたし、組合員及び地域社会の要請に応えるとともに、信頼される組織文化を創造します。

### 〔実践項目〕

- ① 組合員の豊かな暮らしをつくります。
- ② 「農」と「共生」を基本とした地域社会をつくります。
- ③ 経営基盤の強化と効果的・効率的な事業運営をすすめます。
- ④ 活力ある職場をつくります。



# Ⅱ JAいわて花巻のめざすもの

## 第3次中期経営計画の基本目標

(平成28年度～平成30年度)

### 農業

〔将来のめざす姿〕

消費者の信頼に応え、安全・安心な農畜産物を  
持続的・安定的に供給する地域農業を支え、組合  
員の農業所得確保・増大を支える姿

〔基本目標〕 **農業者の所得増大、農業生産の拡大** (最重点目標)

〔重点施策〕

1. 集落営農ビジョンの見直しによる地域コミュニティの活性化
2. 農業者の所得増大と農業生産の拡大
3. 新たな販売体制の構築
4. 地産池消
5. 利用施設の効率化と採算性の改善
6. 営農指導体制の構築
7. 生産資材コストの低減と農業生産の省力化・効率化



## Ⅱ JAいわて花巻のめざすもの

### くらし

〔将来のめざす姿〕

総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、協同の力で豊かでくらしやすい地域社会の実現に貢献している姿



〔基本目標〕 **地域の活性化、協同活動の活性化**

〔重点施策〕

1. くらしの活動を通じた地域コミュニティの活性化
2. 総合事業を通じた生活インフラ機能の発揮



### 組織 経営

〔将来のめざす姿〕

組合員・地域住民との結びつきを深め、食と農を基軸として地域に根ざした信頼される協同組合として存立している姿



〔基本目標〕 **結びつき強化、経営基盤強化**

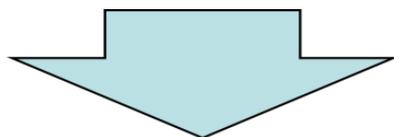
〔重点施策〕

1. 結びつき強化による協同活動の活性化
2. 財務基盤強化と経営健全化

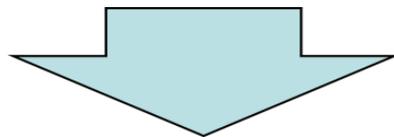
# Ⅲ 組合員組織育成とその効果

## ■ 合併後の運営課題

1. 地域によって組合員の考え方が違った
2. 合併時の思いを引きずっていた
3. 事業に対する考え方、進め方が違った
4. 事業規模の違いによる予算の格差、使い方が違った
5. 経営指数について地域毎に格差があった



同じJAで何故組合員の考え方が違うのか



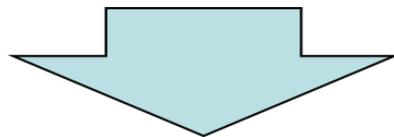
- ✓ 組合員との関係が希薄で、運営方針が徹底されていなかった
- ✓ JAに対するあきらめの一方、地域エゴの主張が強かった
- ✓ 地域毎で職員間の仕事に対する意識が違った

# Ⅲ 組合員組織育成とその効果

## ■ 現状を踏まえた今後の対策

1. JAの原点である組合員の意識統一
2. 手取り優先の農業振興計画の作成
3. 組合員メリットの充実
4. 組合員教育活動
5. 組織リーダーの育成

組合員教育活動の充実、意識の平準化



- ✓ 組合員の意識統一（支店座談会、総代研修会等の実施）
- ✓ 農家組合の再編、農家組合長を育成するための研修会の充実
- ✓ 担い手リーダー、食育リーダー等の育成

# Ⅲ 組合員組織育成とその効果

## ■ 組合員組織活動の充実

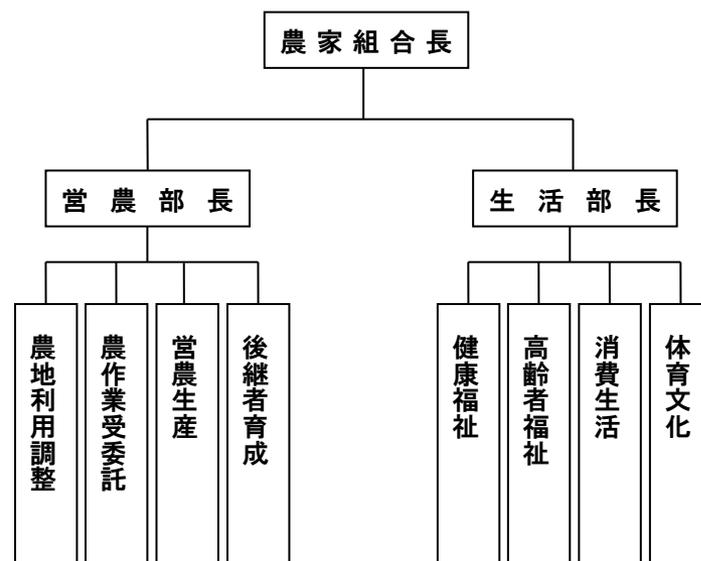
### ➤ 農家組合を組織基盤とした取り組み

- ◆ 農家組合はJA組織で一番大事な基礎組織
- ◆ 農家組合に全ての職員を配置し、家庭訪問活動や集落営農の事務支援
- ◆ 集落での活動は、組合員のコミュニティづくり
- ◆ 女性も参画し、准組合員と共に交流する
- ◆ 地域資源及び農村環境の保全管理

### ➤ 支店を核とした活動戦略

- ◆ 地域の歴史的伝統文化を尊重した支店運営
- ◆ 組合員への支店施設開放
- ◆ 支店別の組合員・地域住民との交流イベント  
(ふれあいプラン・支店まつりなど)

### 農家組合の機構図



平成28年度活動予算  
2億1000万円

# Ⅲ 組合員組織育成とその効果

## ■ 農家組合活動の基本項目

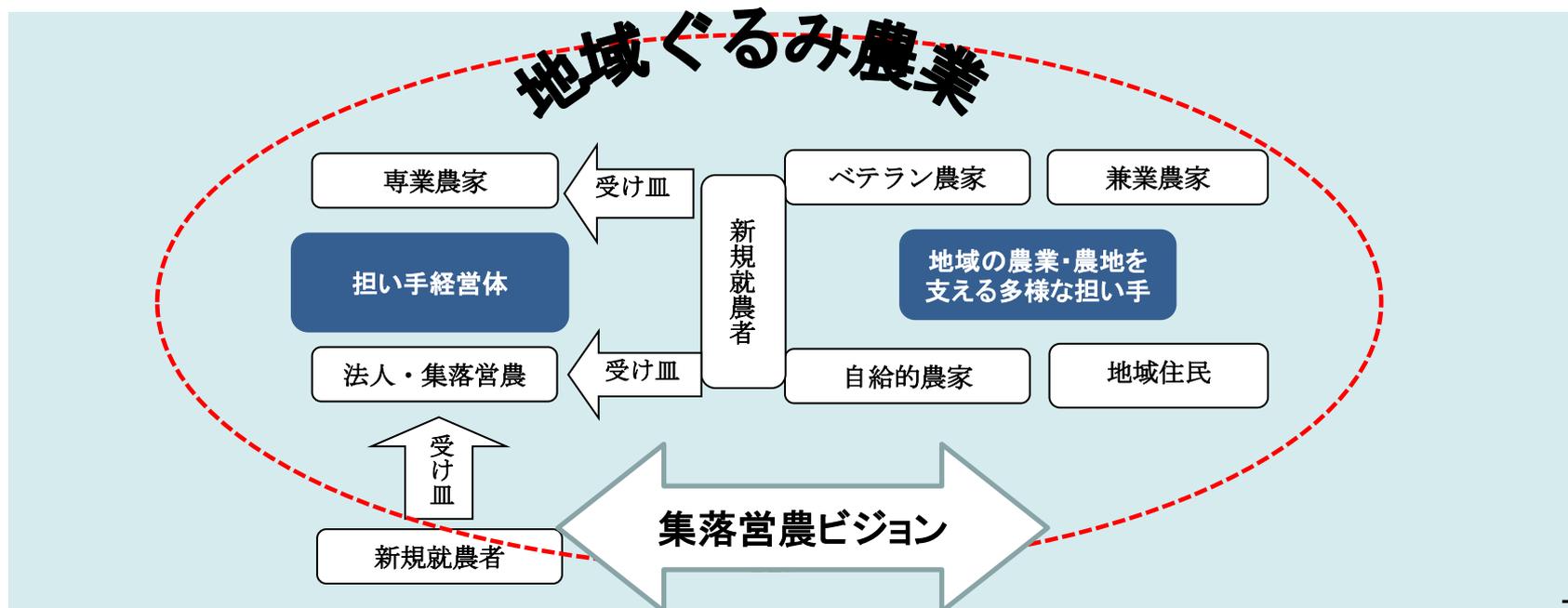
項目	主な活動内容
総会	年1回の通常総会、事業計画の策定、地域課題の共有
リーダー育成	農家組合長・営農部長・生活部長研修会の実施
農業振興	集落ビジョンの策定と見直し、農地水保全活動、受託組織との調整 ＜営農部＞ <ul style="list-style-type: none"><li>● 農用地の利用調整と計画策定</li><li>● 生産資材の取りまとめ</li><li>● 低コスト農業・特別栽培の取組み</li></ul>
後継者育成	女性部や青年部との研修会、交流会の実施
くらしの活動	＜生活部＞ <ul style="list-style-type: none"><li>● JA農業まつり、ふれあいプラン・トークへの参画</li><li>● 各イベントの開催(さなぶり、感謝祭、収穫祭など)</li><li>● 健康管理活動、婚活、高齢者福祉活動、消費生活活動</li></ul>
研修活動	研修視察(先進地事例)の実施
教育資材普及活動	家の光三誌、日本農業新聞の普及拡大運動の実施

# Ⅲ 組合員組織育成とその効果

## ■ 集落営農ビジョンの策定と実践

集落営農を基本とした「地域ぐるみ農業」確立のため、全農家組合で集落営農ビジョンの見直し・策定を行い、高齢化に対応しながら担い手を育成できる持続可能な集落営農の推進をします。

また、変化する農業情勢に迅速に対応し、効果的に推進できる支援体制を構築します。



# Ⅲ 組合員組織育成とその効果

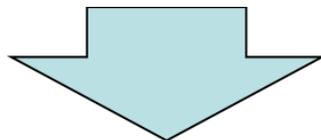
## ■ 農家組合の再編

### 取組経過

- 組合員の高齢化、専業農家の減少により集落内農業者が減少
- 農地集積により、集落内農用地の維持管理と作業の共同化が求められていた
- 少人数の農家組合(10~30戸)では農地集積の範囲が狭く、課題解決は困難

[70~100戸を目標に〈農家組合の再編〉を実施]

◆ 花巻地域	200農家組合(平成元年頃)	⇒	154農家組合
◆ 北上地域	263農家組合(平成24年度)	⇒	82農家組合
◆ 西和賀地域	60農家組合(平成24年度)	⇒	32農家組合
◆ 遠野地域	200農家組合(平成19年頃)	⇒	100農家組合



全農家組合で集落営農ビジョンの策定

# Ⅲ 組合員組織育成とその効果

## ■ 農家組合育成の効果

### 1. 農家組合員の集結軸の強化

- 全368農家組合で集落営農ビジョンの策定・実践

### 2. 生産法人による米乾燥調整貯蔵施設等の建設と自主運営

法人名	規模
(農)花巻東部CE利用組合(宮野目支店)	2,000t
(農)胡四王みらい(矢沢支店)	種子センター
(農)石鳥谷広域CE利用組合(石鳥谷支店)	2,000t
(農)北上中央CE利用組合(北上支店)	2,000t

#### 負担割合

- 国庫補助 5割
- 行政補助 1割
- JA補助 1割
- 自己負担 3割

※ 土地はJAが取得

### 3. 米集荷200万袋運動による協同活動の実践

- 平成26年産米 197.0万袋
- 平成27年産米 200.3万袋
- 平成28年産米 188.0万袋

### Ⅲ 組合員組織育成とその効果

#### 4. 集落営農・生産法人の設立

○ 平成28年 集落営農組織 96組織 生産法人等 96組織

#### 5. 農地中間管理事業

項目	平成26年			平成27年		
	人数	面積(ha)	金額(百万)	人数	面積(ha)	金額(百万)
地域集積協力会	9	799	252	44	2,275	608
経営転換協力会	452	443	203	1,100	1,197	508
耕作者集積協力会	500	74	15	600	581	116
合計	961	1,316	470	1,744	4,052	1,232

#### 6. 予約肥料・農薬の利用率向上

○ 平成28年 肥料 93% (平成20年 75%)

○ 平成28年 農薬 88% (平成20年 70%)

#### 7. 支店行動計画、ふれあいプランの実践(全27支店で実施)

# Ⅲ 組合員組織育成とその効果

## ■ 農家組合(地域コミュニティ)を取り巻く課題

### 1. 組合員意識の多様化

- 農家組合活動の参加者が減少、若年層が集まらない
- ふれあいプラン等による世代を越えた活動の展開

### 2. 集落営農や生産法人の設立による組合員の脱退

- 准組合員への資格変更を誘導

### 3. リーダー不足による協同活動の低下

- 農家組合役員の輪番制、非農業者役員の誕生
- 地域課題の共有と課題解決に向けた体制の協議

### 4. 地域間による活動格差

- 農協への結束力の違いにより、活動規模の縮小や活動自体が停滞する農家組合がでてきた
- 支店を中心としたJA運営の展開、支店長・集落担当職員が農家組合活動を支える体制整備

# IV 女性が活躍するJ A いわて花巻

## ■ 女性管理職の登用

年 度	室部長 (7名)	次長 (7名)	支店長 (27名)	本店課長 (18名)	支店課長 (91名)	合 計
平成21年			1	1	18	20
平成22年			1	2	19	22
平成23年		1	5	3	18	27
平成24年		1	5	3	20	29
平成25年			10	3	12	25
平成26年	1		9	2	16	28
平成27年	1		8	3	17	29
平成28年	1		8	2	18	29

# IV 女性が活躍するJAいわて花巻

## ■ 女性理事

地域	男性	女性	合計
花巻	18	1	19
北上	8	0	8
西和賀	2	1	3
遠野	6	0	6
合計	34	2	36

## ■ 女性管理職

地域	男性	女性	合計
花巻	82	23	105
北上	34	8	42
西和賀	10	0	10
遠野	23	6	29
合計	149	37	186

※ 平成29年5月役員改選により女性理事2名増員する。

## ■ 女性総代 (平成28年8月改選)

地域	男性	女性	合計
花巻	439	43	482
北上	238	21	259
西和賀	55	7	62
遠野	181	16	197
合計	913	87	1,000

# IV 女性が活躍するJAいわて花巻

## ■ なぜ「女性支店長」なのか！

平成21年度協同セミナー講師受入

- ・ 信用事業を中心とした事業推進指導
- ・ 合併農協としての意識統一

女性支店長の目ざましい活躍

- ・ 着実に実績伸長
- ・ 部下とのコミュニケーション力
- ・ 地域からの信頼
- ・ 男性とはちがう視点

女性課長の評価と支店長への登用

- ・ 支店行動計画の信頼性
- ・ こまめな組合員対応
- ・ ライバル意識の向上
- ・ まかせてやらせてみる

## ■ 「女性支店長」を10名登用

### 支店長の役割

- ・ 支店事業、職員の管理
- ・ 地域諸行事への参加
- ・ 農家組合の対応
- ・ 女性部活動への事業参画
- ・ 支店長の広域人事異動(地域格差の是正)

### 女性活躍推進法

(H27.9.4制定)

- ・ 平成30年指導的地位の女性割合30%以上  
(現在のJAいわて花巻 20%)
- ・ 女性役員の増員  
(現在2名、平成29年5月役員改選時4名)

# V 農協改革について

## ■ 我が農協の始まりは・・・

明治時代後半にかけて、悪質な肥料に悩まされた。

- そこで、農家数名が肥料を共同で購入した。  
青森県八戸市から魚カスを買うなど、共同購入がすすんだ。 (購買事業)
- 今度は、収穫された農畜産物を共同で販売しよう。 (販売事業)
- 集まったお金を共同で利用しよう。 (信用事業)
- 組合員・利用者の生命・財産を守ろう。 (共済事業)
- 組合員の生活向上のため生活改善、共同購入などがすすんだ (生活事業)

- 農家組合員、地域の要望があった。必要とされてきたから今までの事業をやってきた。
- 組合員の生活向上と農業発展、地域経済の発展に貢献してきた。

**経済界の行き過ぎた資本主義の理論でとやかく言われたくない。  
しかし、我々JAも今までと同じではやって行けない時代となった。**

- 人口減少や超高齢化が進行、組合員の多様化・脱退、准組合員の増加
- 農家組合員と一緒にあって、地域にあったJAビジョンを創れ

# ご清聴ありがとうございました

新鮮で安全な農畜産物を作るには、  
「いい土」と「きれいな水」が基本です。  
そして、農家の愛情が加わることで  
消費者にも”おいしさ”が伝わるものであり、  
「農と共生」の心がここに生きています。

## JAいわて花巻は、

イーハトーブの大地に根ざした、  
環境にやさしい農業をめざして  
“発進”します。

